

志 士

(しし) 幸福の科学学園関西中学校・高等学校

幸福の科学学園関西剣道部の部旗には「志士」という文字が染め抜かれています。

「志士」とは高い^{こころざし}志を持つ人のことを言います。

この「志士」という言葉の起源は古く『論語』に登場します。孔子(こうし) (552年BC~479年BC)は乱れた世の秩序を正すために「仁(じん)(愛)による政治の実現を説いて、諸国行脚(しよこくあんぎやう)します。そして行脚の中で問答をしながら弟子を育てました。その問答の記録『論語』の「衛霊公(えいこう)」に、この「志士」という言葉が登場します。

「子曰く、志士・仁人(じんじん)は、生を求めて以て仁を害(そ)なう無く、身を殺して以て仁を成す有り」つまり、「孔子先生はおっしゃった。志士(志あるひと)や仁人(思いやりのある人)は、自分が生きるために仁(人の道)を捨てるということはなく、自分の命を捧げてでも人の道を守ろうとするのだ」という意味です。

幕末(しょうへいごう)の昌平黌(幕臣の大学)の儒官(じゆかん)(儒学の先生)佐藤一斎(いっさい)は孔子のいう「志」という言葉を深く追求しました。『言志録』という「志」について述べた一斎の随想録には「志有るの士は利刃(りじん)の如し 百邪(ひやくじや)も辟易(へきえき)す」(志の有る者はよく磨いた刃のように、あらゆる邪(よこしま)なものを退(しりぞ)ける)などの言葉がちりばめられていて、勝海舟(かつみづ)など改革派(ぼくしん)の幕臣(ぼくしん)のみならず、坂本龍馬(さかもと りゅうま)、吉田松陰(よした まつゐん)、西郷隆盛(さいごう りゅうせい)など討幕派(とうぼくは)の若者(わかもの)たちにも強い影響を与えました。

そして多くの志有る者「志士」が命(いのち)をも厭(いと)わぬ活躍(かつやく)をし、新しい世を創(つく)りました。

社会(しゃかい)が目まぐるしく変化(へんげ)し、青年(せいねん)がともすれば生きる目標(きくひやく)を見失(みせ)いそうになる現代(げんたい)、

「志(こころざし)ある人間(にんげん)となれ」とこの部旗(ぶき)は若人(わかもの)たちを励(む)ましているのです。

(参照 『論語』加地伸行(かぢのぶゆき)訳注 『言志四録』佐藤一斎(いっさい)著 いずれも講談社(こうだんしゃ)学術(がくじゆつ)文庫(ぶんこ))